

今日から実践 包括的審美歯科補綴

～Collaboration between chair side and lab.side

(株)カロス、(株)KPC(カタナプロダクションセンター)

増田 長次郎

歯科医療における補綴の役割は、外科術式や補綴の技術革新によって、術後の予知性と審美性の両立が可能かつ容易となった。歯列の連続性を回復し顎口腔機能へアプローチした上で審美性を確立していかなければならない。

実際の臨床レベルでは、高度な適合精度や、歯周的なメンテナンスのためのサブジンジバルカンテッダー(上部構造によるティッシュサポート)、審美性、咬合、歯牙移動、材料など、包括的な知識と治療が要求される。また、歯科材料の目覚ましい発展によって、外科術式や補綴の選択肢・優位性が向上したことは周知の事実である。また、デジタル化を組み入れながらチェアサイドとラボサイドの役割分担を明確にし、そして、同じ意識で一人の患者・一つの模型に取り組まなければならない。審美性と機能の回復、ロンジェビティーの確立のために、基本・基礎的な点に注目し、ラボがいかにチェアサイドをサポートしていくか、その理論背景とそのやり取りを咬合編、審美編に分けて示したい。